

第 62 回文化講座

# 発掘調査速報 2015 その 1

【日時】 7月 25 日（土） 13：30～16：00

【会場】 沖縄県立埋蔵文化財センター 研修室

第 62 回文化講座  
**発掘調査速報展 2015 その 1**

## 沖縄県立埋蔵文化財センター 第62回文化講座「発掘調査速報展2015 その1」

平成 27 年 7 月 25 日 (土) 13 時 30 分～16 時 00 分

あいさつ 沖縄県立埋蔵文化財センター所長 下地 英輔

自保竿根田原洞穴遺跡確認調査 仲座 久宣 … 1

阿波連浦貝塚（県内遺跡詳細分布調査） 宮城 淳一 … 5

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 休憩 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

喜友名前原第三遺跡（基地内文化財分布調査） 大堀 鮎平 … 9

戦争遺跡からみた沖縄戦 瀬戸 哲也 … 18

# 白保竿根田原洞穴遺跡確認調査

沖縄県立埋蔵文化財センター  
仲座 久宣

事業名：白保竿根田原洞穴遺跡確認調査

所在地：石垣市字白保

時代：旧石器時代（後期更新世）～グスク時代

調査期間：平成 26 年 6 月 3 日～7 月 2 日

## 1 はじめに

琉球列島の島々は、琉球石灰岩で覆われた地域が多く、人骨が化石として残りやすいことから、旧石器時代の人骨が数多く出土することで知られています。これまで、沖縄本島や伊江島、久米島、宮古島などの島々において、10か所前後の遺跡が発見されていますが、八重山諸島では未確認の状態が続いていました。

このような中で、2010（平成 22）年度に行われた新石垣空港建設に伴う発掘調査で出土した人骨が、約 2 万年前のものであることがわかり、その当時の石垣島に人類が到達していたことを明らかにしました。

その後、沖縄県立埋蔵文化財センターでは、遺跡のより詳細な性格・範囲を確認する目的で、平成 24 年度から重要遺跡確認調査を行っています。平成 26 年度は 6 月の 1 か月間発掘調査を実施しました。調査にあたっては、出土遺物の分析に支障がないよう、また、出土状況の再検証が可能なように、検出や記録、取上げ、運搬、分析試料サンプリングに至るまで慎重かつ迅速に行うよう努めました。

## 2 調査の概要

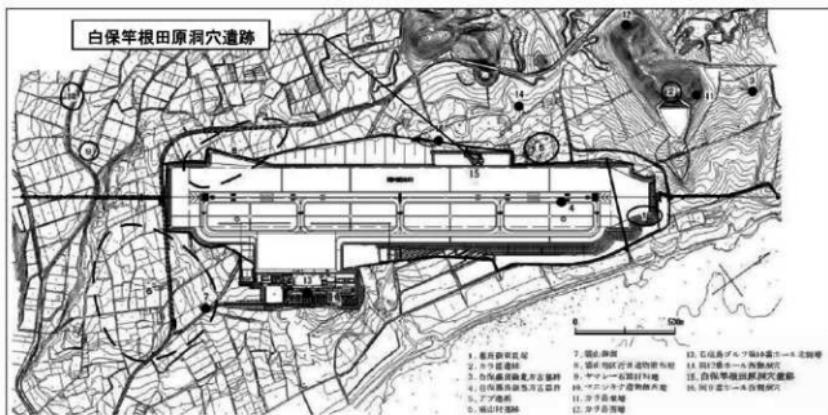
平成 26 年度の調査は、本遺跡最下層とされる IV 層（2 万～2 万 4 千年前 BP）の範囲確認を目的として、G・H4・5 グリッドにおいて 4m の調査を行いました。調査は III E 層（2 万～2 万 4 千年前 BP）から掘り進め、ヒトの肋骨がまとまって出土する状況が確認されました。その後、崩落岩を削岩機で割りながら掘り進め、その下部から石材やヒトの大腿骨、脛骨の一部が出土しています。この人骨は関節している可能性があり、ある程度、解剖学的な位置関係を保つ可能性があります。

今後は遺物の位置関係や接合状況などを検討しながら出土状況をまとめ、人骨は接合・復元を行い、形質学的分析のほか、年代測定、DNA 分析を行います。また、土壤分析による分層及び堆積の過程を確認し、地形図や写真等の情報と合わせて旧地形の復元作業を行う予定です。

なお、調査期間中には調査指導委員会を開催し、遺跡の評価について検討を行いました。さらに、石垣市教育委員会の協力により、関連講座を 2 回開催し、調査・研究の成果を公開しました。

## 3 今後の計画

平成 27 年度まで確認調査を行う予定にしています。また、遺跡の適切な保護や評価、地域での活用法について検討し、その後調査報告書を刊行する予定です。



第1図 新石垣空港と周辺の遺跡



## 第2図 平成26年度調査範囲



第3図 遺跡の堆積と平成26年度調査箇所

第1表 主な層序と遺構・遺物

層序	時代 (年代BP)	遺構	遺物 (出土量: ◎ 多い○ 普通△ 少ない)											
			人工遺物			自然遺物								
			陶器	土器	貝・骨・石製品	人骨	魚類	カエル類	リクガメ類	トカゲ・ヘビ	鳥類	ネズミ類	ネコ	イノシシ
0層	現代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
I層	中森期 (ヤマト時代・11~16世紀)	地床炉跡: 1基	△	△	-	△	○	△	△	△	△	△	△	○
II層	無上器期~中森期	津波堆積層か	-	-	△	-	○	○	-	△	△	△	△	△○
III A1層	無上器期 (約2000年前・弥生並行)	炭化物集中: 2基	-	-	-	△	○	○	○	○	○	△	○	○
III A2層	下田原期 (約1000年前・彌文後期並行)	疊敷遺構	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
S層	下田原期 (約1000年前・彌文後期並行)	崖葬墓	-	△	△	△	○	○	○	○	△	△	○	△○
III B層	完新世前半 (5500BP~9500BP)	-	-	-	-	○	△	○	○	△	○	○	○	○
B層	後期更新世末 (12000BP)	-	-	-	-	△	△	○	△	○	○	△	△	○
III C層	後期更新世 (16000BP~18000BP)	-	-	-	-	△	○	-	○	△	△	○	△	○
III D層	後期更新世	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
III E~IV層	後期更新世 (20000BP~24000BP)	-	-	-	-	○	△	○	○	△	○	△	△	-
A層	更新世か	-	-	-	-	△	△	△	△	△	△	△	△	○○



図版 1 白保竿根田原洞穴遺跡調査状況



図版 2 G5 区IIIc 層人骨片検出作業



図版 3 G4 区IIIe～IV層人骨検出作業



図版 4 崩落岩の削岩作業



図版 5 調査指導委員会現地視察の状況



図版 6 土壌サンプリング作業(追加調査)



図版 7 錘乳石サンプリング作業(追加調査)



図版 8 人骨取り上げ作業(追加調査)

# 阿波連浦貝塚（県内遺跡詳細分布調査）

沖縄県立埋蔵文化財センター  
宮城 淳一

事業名：県内遺跡詳細分布調査

所在地：渡嘉敷村阿波連浦貝塚

時代：縄文時代～弥生並行期

調査期間：平成 26 年 8 月 4 日～9 月 11 日

## 調査の目的

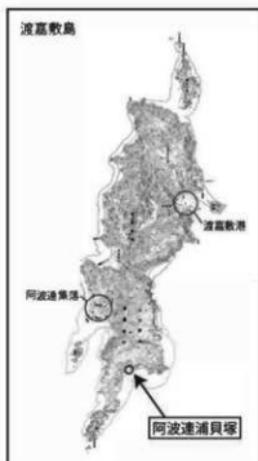
これまで埋蔵文化財の分布状況の把握が不十分であった慶良間諸島（渡嘉敷村・座間味村）において、平成 22～27 年度の予定で遺跡分布調査を実施しております。

## 阿波連浦貝塚の範囲確認調査

平成 26 年度は渡嘉敷村阿波連浦貝塚の範囲確認調査を実施しました。

阿波連浦貝塚は、渡嘉敷島南東隅の海岸砂丘に位置する縄文時代晚期～弥生並行期の遺跡で、昭和 53（1978）年に沖縄国際大学の学生による踏査によって、採砂中の砂丘より多くの貝殻や土器を発見しました。その後同大学試掘調査（1978、1979）及び範囲確認調査（1986、1987）が行われ、その結果 3 つの文化層（IV 層、VI 層、VII 層）が確認されました。また VI 層から出土し標識とされた阿波連浦下層式土器は縄文時代晚期から弥生並行期の時期に位置付けられ、南九州縄文晚期の黒川式と特徴が類似することが指摘されていることから、土器型式の変遷や九州地域との関連（交流）を知る重要な遺跡と考えられています。しかし近年風雨や雨水の流れ込みにより遺跡の崩壊が進み、その保存が懸念されていました。

そこで当センターでは、遺跡の保護を検討するために平成 26 年度より地形測量と範囲確認調査を開始しました。

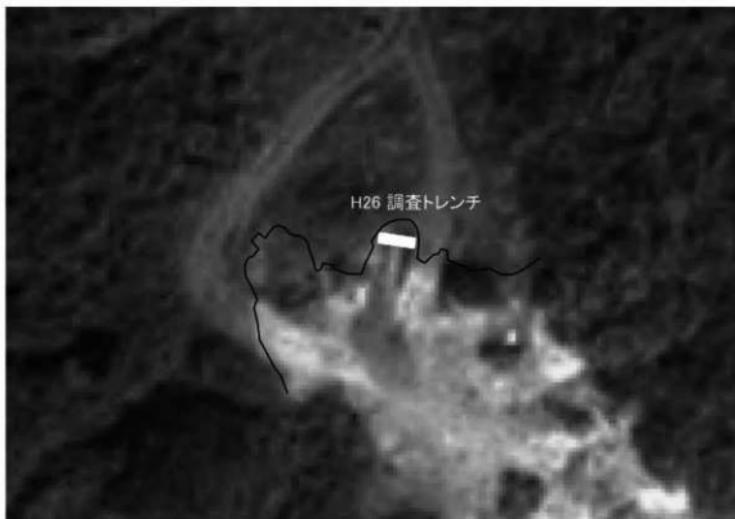


## 調査について

今回、砂丘の崩壊が大きい箇所の現状を把握するために、トレンチを1箇所設定し調査を行いました。

## 今年度の調査について

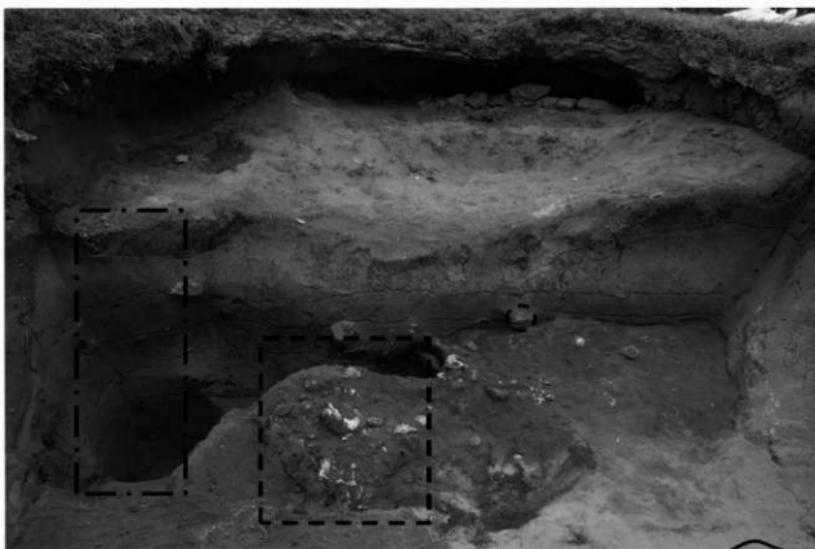
今回、砂丘の崩壊が大きい箇所の現状を把握するために、トレンチを1箇所設定し調査を行いました。



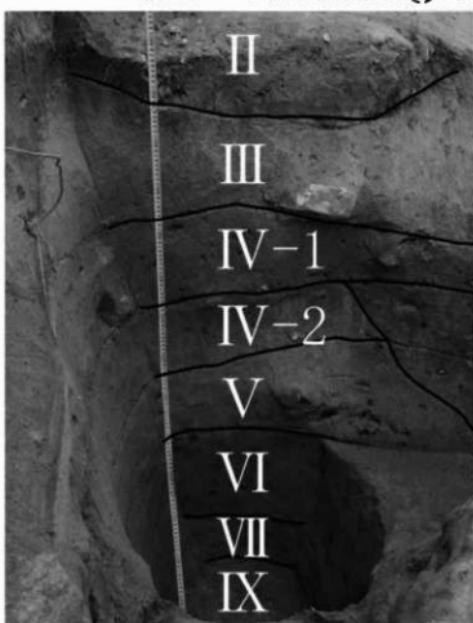
平成 26 年度 調査箇所 平面図



阿波連浦貝塚 全景( )が調査箇所 南より撮影)



調査トレンチ北壁 分層状況(□は土器、△は貝集中遺構)



北壁分層状況(□部分拡大)

その結果、

I層(現砂丘層)

II層(旧地表・砂丘層)

III層(黄褐～浅黄色砂丘層)

IV層(黒褐色粘砂層)

V層(淡黄色砂層)

VI層(黒褐色砂層)

VII層(淡白色砂層)

VIII層(灰白色砂岩)

を確認しました。

今回の調査ではIV層で浜原式と思われる土器の底部、VI層より土器の破片が数点出土しました。

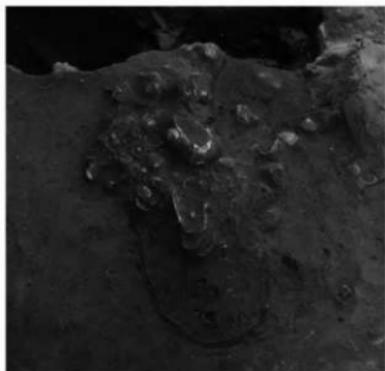


トレンチ北壁 土器検出状況



出土土器拡大

またIV層の下面より貝集中遺構を確認しました。この遺構からはオオベッコウガサ、イモガイ、ヒメジャコ、ヤコウガイ等の貝類のほか、土器の破片も一緒に出土しました。しかし今回の調査では過去の調査で確認されたVII層が確認できませんでした。これは砂丘の下にある岩盤(IX層)が北から南へ傾斜しているためと考えられます。



貝集中遺構検出状況



貝集中遺構から出土した貝

#### 今後の保存について

阿波連浦貝塚が所在する砂丘は、風雨の影響を受けていますが、今回過去に確認された包含層を確認することができ、遺跡の現状を把握することができました。今後は阿波連浦貝塚の詳細な範囲の確認と、遺跡の保護を図る予定です。

# きゆなめーばる 喜友名前原第三遺跡（基地内文化財分布調査）

沖縄県立埋蔵文化財センター  
大堀 鮎平

事業名：基地内文化財分布調査

所在地：宜野湾市喜友名

時代：縄文時代後晩期（約3500～2500年前）、グスク時代（12～17世紀初）、近世・近代

調査期間：平成26年9月1日～平成27年3月24日

## 1 基地内文化財分布調査のあらまし

### 目的

沖縄県内の米軍基地や自衛隊基地内にある埋蔵文化財（＝遺跡）の範囲や性格を把握

→ 遺跡分布地図など、文化財保護のための基礎となる資料を作成

### あらまし

平成9年度 文化庁の国庫補助事業としてスタート。

平成11年度 返還決定をうけて、特に面積が広く緊急性が高い普天間飛行場内で試掘調査を開始する。

平成13年度 宜野湾市教育委員会が参加、分担して調査を行うようになる。

平成20年度 重要施設や滑走路などの調査不可エリアを除いた普天間飛行場内の約3～4割の面積について試掘調査をほぼ完了し、確認調査へ移行。

平成21年度 それまでの調査成果をまとめた『普天間飛行場内遺跡地図（中間報告）』を刊行。

この年から立人の手続きが難航するようになる。

平成22年度 大山加良当原第四遺跡の確認調査を開始。

平成25年度 喜友名地域の確認調査を開始。

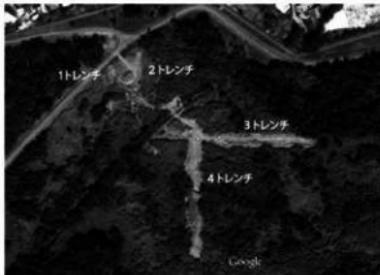
## 2 喜友名前原第三遺跡の調査とその成果

### これまでの発掘調査

平成11・12年度の当センター実施の試掘調査によって遺跡を発見、さらに平成17年度に一度目の確認調査を実施しています。そして平成26年度は遺跡の範囲を確認するために調査を行いました。

### 平成26年度の調査と成果

昨年度までの発掘調査によって、喜友名前原第三遺跡では縄文時代後半から終わりごろ（縄文時代後期・晩期約3000～2500年前）の家の跡とみられる遺構や遺物、グスク時代（約1000～400年前）の柱の跡、近世・近代（400～70年前）の溝や烟の跡や遺物といった、3つの時代の遺構や遺物が発掘されました。この成果からは、縄文時代の暮らしぶりの一端や、この場所の土地利用の移り変わりを窺い知ることができます。



喜友名前原第三遺跡の位置と調査箇所

### 3 近世・近代の遺構と遺物

#### 3-1 近世・近代の遺構

昭和20年の米軍航空写真には、この遺跡一帯に畠が広がっていることを確認できますが、発掘からも溝状の遺構や歴跡など畠に関連する遺構が検出されました。



##### 近世・近代の遺構

背景は昭和20年の米軍航空写真。畠の区画と遺構のライン(白線)がおよそ一致しています。



石が詰め込まれた溝状遺構

南北方向に延びる溝状遺構で、中には石が詰め込まれていました。



出土した木柱

溝に沿うように出土したため、区画に伴う柵があった可能性が挙げられます。



#### 溝と歴跡

溝状で方形に区画され、その中に歴跡が複数条走る様子が確認できました。

溝のラインは、昭和 20 年の測量図にある畠の境界線とほぼ一致しています。



#### 軽車道跡？

幅 2 m、深さ 1 m ほどの溝が残されていました。また一部には石積みも確認されました。この溝のラインは、大正時代の地図には軽車道と記録されていますが、「軽車」とは何を指すでしょうか。

### 3-2 近世・近代の遺物

近世・近代の遺物には、沖縄産や本土産の陶器類を中心に、煙管や火打石といった実用品、遊具など、この時代の人々が日常的に使っていた道具が出土していますが、烟のためか出土量は少なめです。



陶磁器

沖縄産陶器や中国・本土の陶磁器が出土しています。特に小碗や杯といった小形の器種が多い傾向にあります。



様々な道具

左上から遊び道具とされる円盤状製品、延べ煙管や沖縄産の陶器製煙管、石英を利用した火打石などが出土しています。

この場所が烟として利用されていたことを反映してか、出土量・種類とも集落遺跡に比べて少なめです。



指輪

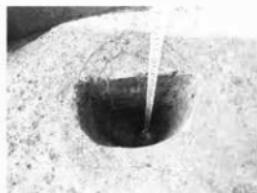
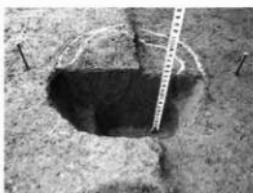
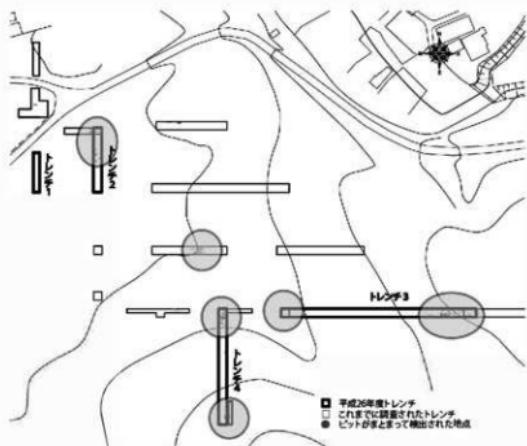
トレンチ 1 の石の詰められた溝内から出土しました。青銅製で花弁が装飾されています。

## 4 ゲスク時代の遺構と遺物

### 4-1 ゲスク時代の遺構

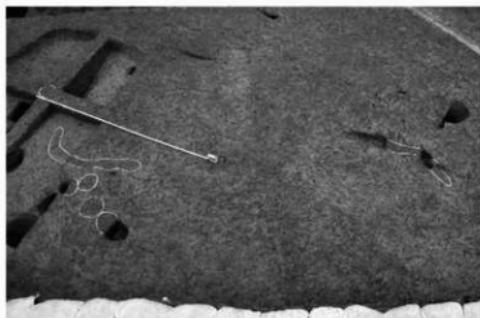
ゲスク時代の遺構には、柱穴の跡が2・3・4トレンチの一部でまとめて検出されています。この遺構の存在からは、ゲスク時代の頃には柱建ての建物が複数件建っていたことを窺わせます。

また輪っかのような形の遺構である円弧状遺構も検出されています。時代は不明ですが、埋まっている土（覆土）からゲスク時代と想定されます。



柱穴跡

発見される場所はまとめており、ゲスク時代の頃の建物を建てた場所を窺うことができます。



円弧状遺構

2トレンチで2基が近くから検出されています。性格は不明です。

## 4-2 ゲスク時代の遺物

ゲスク時代の遺物は極めて少なく、また破片も小さいものしか出土していません。



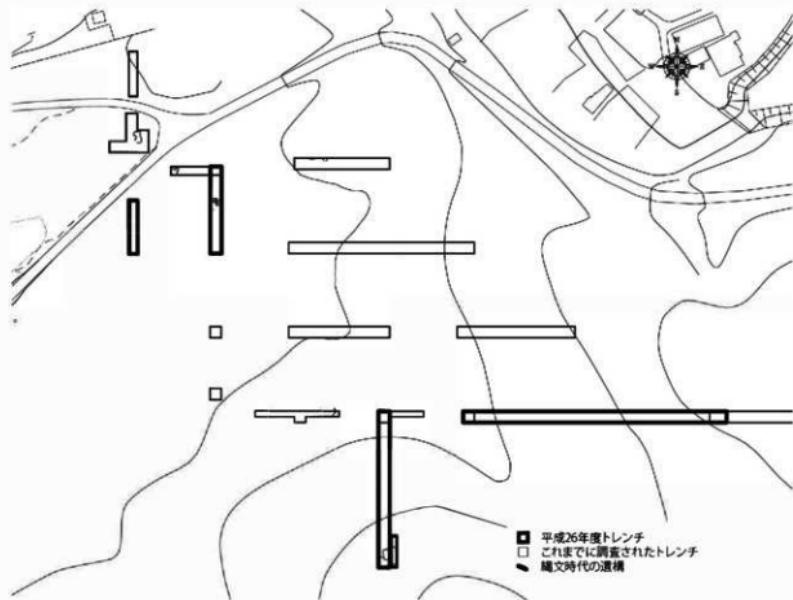
ゲスク時代の陶磁器

中国産の青磁の破片やタイ産の  
褐釉陶器（手前右）。

## 5 縄文時代の遺構と遺物

### 5-1 縄文時代の遺構

縄文時代の竪穴住居址の可能性のある遺構が発見されています。この遺構は昨年度調査でも発見されており、出土遺物も共通することから関連性が高いと考えられます。





#### 豎穴状遺構

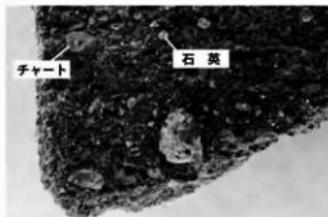
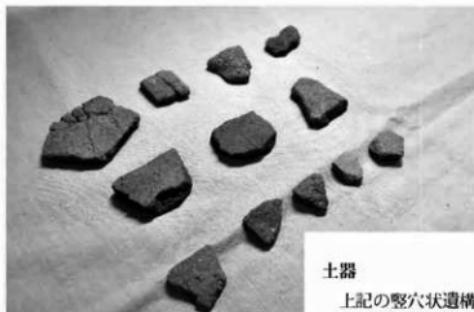
2トレンチと4トレンチで検出されています。2トレンチのもの（左上）は、床面付近より上は後世の土地利用によって無くなっています。この遺構の周囲からのみ、縄文土器片などが出土しました（左下）。

4トレンチの遺構（右上）は範囲が大きいため、複数基が重なっている可能性が考えられることから、調査期間を考慮して発掘は次年度に引き継ぐことにしました。



#### 5-2 縄文時代の遺物

縄文時代の遺物には、土器片をはじめ、石器が出土しています。石器は実用的な道具のほか、石器を作った残りのかけらや、素材となる石なども出土しています。これらの遺物は、当時の人々の暮らしぶりだけでなく、素材の産地を調べることで当時の人々の行動範囲や交流・交易についても知る手がかりとなります。



#### 土器

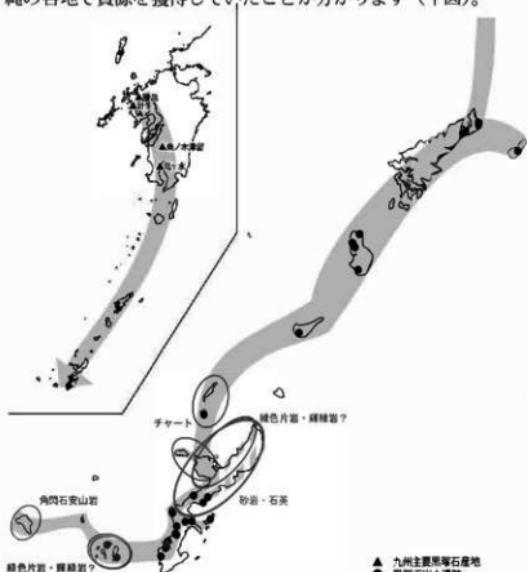
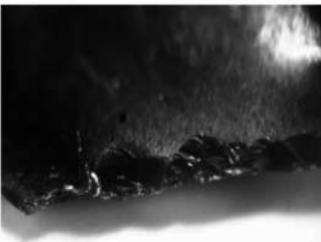
上記の豎穴状遺構の周辺にのみ出土しました。出土した土器のほとんどは胴部の部分で、さらに文様も確認されないことから、詳細な時期については不明です。土器の土（胎土）には、沖縄本島北部や本部半島で採れるチャートや石英という石の粒が入っており、その辺りの土を利用した可能性があります。



## 石器

土器と同じく竪穴状遺構の周辺にのみ出土しました。  
敲石や磨石（左写真上段）、磨製石斧（左写真下段左より3点）といった加工用の道具、打製石器の未成品（左写真下段右）が発掘されています。また沖縄では得ることのできない黒曜石製の石器（右上写真）も1点見つかりました。右側縁には使用によってできた刃こぼれ（右下写真）が確認できます。

いずれの石器の石材も、遺跡近隣では得られない石が使われていました。土器の土も含めて、当時の人々が沖縄の各地で資源を獲得していたことが分かります（下図）。



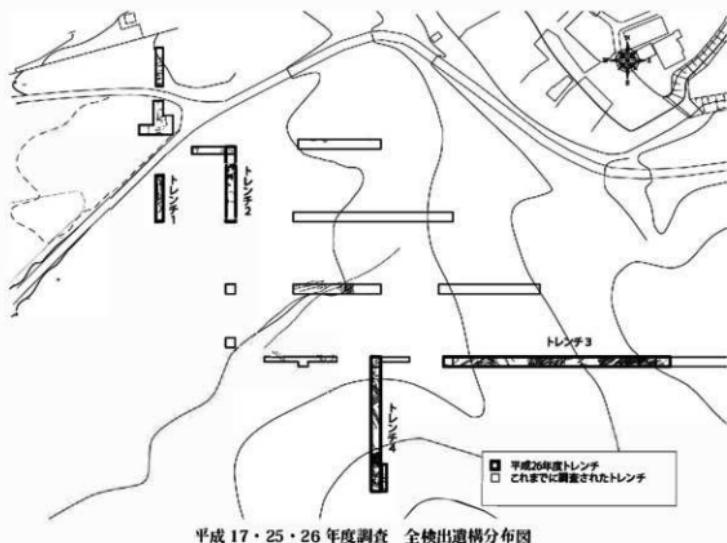
## 土器胎土・石器石材の獲得地

沖縄諸島内では、本島北部や久米島まで行動範囲に含まれていたようです。

また黒曜石の产地は、これまで沖縄で出土した黒曜石や、石の質から西北九州の腰岳産の可能性が挙げられます。

## 6 まとめ

喜友名前原第三遺跡は、これまでご紹介したように、縄文時代から近世・近代まで様々な遺構や遺物が出土しています。特に縄文時代では、一昨年度に調査された喜友名東原第四遺跡<sup>さきゆなひがしはら</sup>に統いて県内でも希少な黒曜石製の石器が出土するなど、学術的に貴重な成果が得られました。そしてこの遺跡は、縄文時代から今日までの、この場所の土地利用の変遷を追うことのできる遺跡です（下図参照）。ぜひ地域や県民の方々と一緒に、適切な保存・活用の方法について考えていきたいと思います。



年代 (~年前)	時代区分	土地利用	主な遺構	主な出土遺物
4000	縄文時代	集落跡？	竪穴状遺構	土器・石器
2500				
	弥生～平安並行時代	？	なし	なし
1000	グスク時代	集落跡？	柱穴	中国産陶磁器
400	近世	畠	溝状遺構 歌跡	沖縄産陶器
200	近代			
70	現代	普天間飛行場		ペットボトルなど
現在				

発掘調査成果から想定される喜友名東原・前原地域の土地利用の変遷

# 戦争遺跡からみた沖縄戦

沖縄県立埋蔵文化財センター  
瀬戸 哲也

沖縄県立埋蔵文化財センターでは、戦争遺跡の保存活用を検討するために2010～2014年度に「沖縄県戦争遺跡詳細確認調査」を実施し、戦争遺跡の性格等の検討・測量などの現地調査などを行い、2015年3月に調査報告書として『沖縄県の戦争遺跡』を刊行しました。

当センターでは、1998～2005年度にかけて、戦争遺跡の分布調査を行い979か所の所在を確認していましたが、今回の調査で2014年時点1,076か所となりました。これらのうち、詳細な情報が得られ重要と考えられる145遺跡について、現地踏査・測量を行い報告書に掲載しております。なお、調査や報告書作成には、専門の先生方や地域の方々に多くのご協力・ご指導をいただきました。

今回の文化財講座では、この調査成果を沖縄戦の流れに沿って、報告したいと思います。

※本資料の掲載図は、特に記したもの以外は、沖縄県立埋蔵文化財センター2015『沖縄県の戦争遺跡』センター調査報告書第75集より引用。



図1 本資料に掲載した戦争遺跡の位置・第32軍主要部隊配備図

## ①沖縄戦以前の戦争遺跡

- 1879年 明治政府は軍隊と警察官を派遣して琉球藩を廃止し沖縄県設置（琉球処分）
- 1896年 首里城に配備されていた熊本鎮台分遣隊が撤退  
中城湾海軍需品支庫が建設（南城市佐敷）（図2）  
陸軍により海底線陸揚室・通信所建設（石垣市崎枝）（図3）
- 1898年 日清戦争後、本土に25年遅れて、沖縄に徵兵令施行  
その後、熊本第6師団の演習や海軍艦隊の寄港は度々あった
- 1904年 海上監視のための海軍望楼（後には特設見張所に改称）が沖縄にも建設（図4・図5）  
日露戦争後、特に昭和初期以降、愛国心や戦意高揚のきっかけとなった記念碑や施設が沖縄でも多く造られる  
忠魂碑…戦死した兵士をまつる記念碑  
奉安殿…各小学校に下賜された「御真影」を収めるための施設
- 1933年 小禄（那覇市）、平喜名（石垣市）に海軍飛行場が建設、翌年には南大東島も
- 1941年 中城湾と舟浮（西表島）に臨時要塞建設→沖縄で本格的な軍隊の配備（図7～11）  
～43年 沖縄県警が管轄する防空監視哨が沖縄県内に11ヶ所設置（図6）

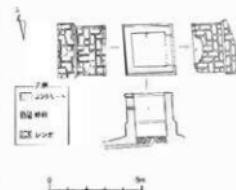


図2 中城湾海軍需品支庫関連遺跡（南城市佐敷の水溜跡）

図3 崎枝の海底線陸揚室（石垣市）

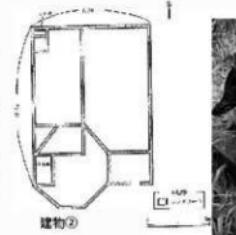


図4 西表海軍望楼跡（竹富町西表島）

図6 与那城防空監視哨跡

（うるま市）

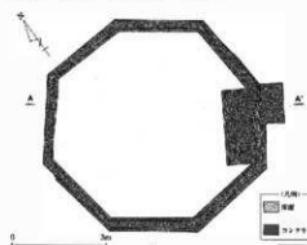
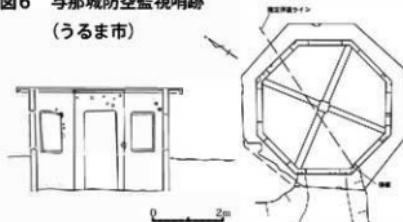


図5 平久保崎海軍特設見張所跡・建物基礎（石垣市）

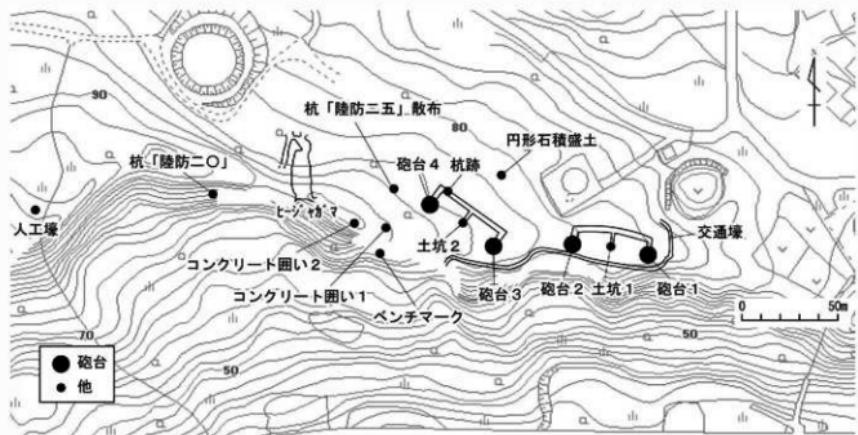


図7 平敷屋砲台跡（うるま市）遺構分布図

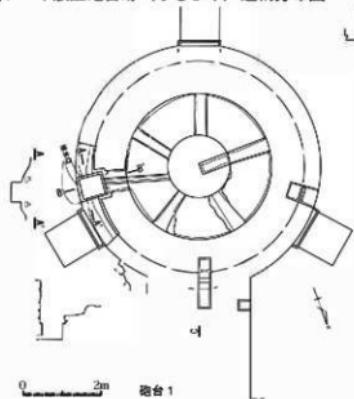


図8 平敷屋砲台跡1

図11 伊計砲台跡（うるま市）・西側砲台



図9 平敷屋砲台跡2刻銘「十六年霜月」

図10 平敷屋砲台復元模型

## ②米軍上陸に備えた戦争遺跡－1

- 1944年3月22日 南西諸島防衛のため航空作戦を任務とした第32軍が創設  
以後、沖縄各地に本格的な軍事施設が構築される（図1）
- 飛行場関係（最も重視された飛行場だが、現存する遺跡は少ない。掩体壕・戦闘指揮所などがある）（図12～14）
- 司令部壕（戦況の悪化に伴い、軍の中核である司令部も地下壕に移る）（図15・16）
- 水際陣地（沖縄戦当初に最も重視した上陸する敵を水際で撃退するための陣地）（図17～20）
- 砲台（大砲を据えるための施設。沖縄戦では露天式もあるが、坑道（壕）式が特徴的）（図21～25）
- 陣地壕（沖縄戦で最も特徴的な坑道（地下）式陣地、特に亀甲塹などを利用して構築）（図26・27）
- 特攻艇秘匿壕（船舶による特攻作戦に使用する特攻艇を秘匿するための壕）（図28・29）
- 学徒隊壕（学徒動員が本格化し、陣地構築等への協力、軍事訓練、学徒自身の手で避難壕も掘られた）（図30）

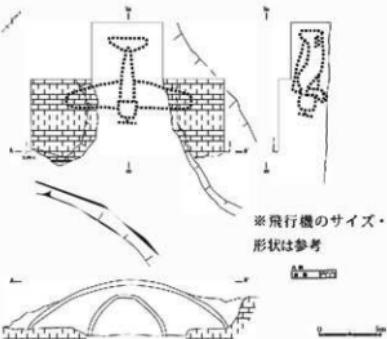


図12 大浜の掩体壕跡（石垣市）

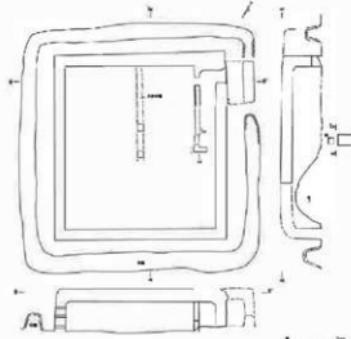


図14 陸軍宮古島中飛行場戦闘指揮所跡（宮古島市）

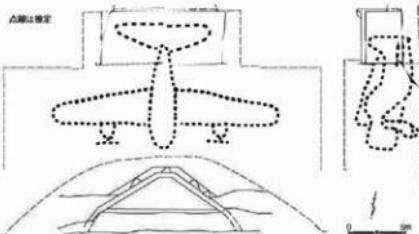


図13 高良の掩体壕跡（那覇市自衛隊基地内）

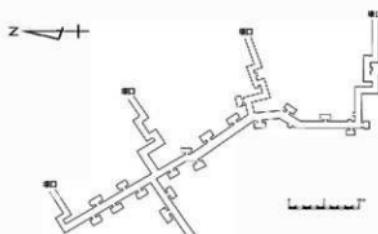


図15 西更竹司令部壕跡  
(宮古島市)

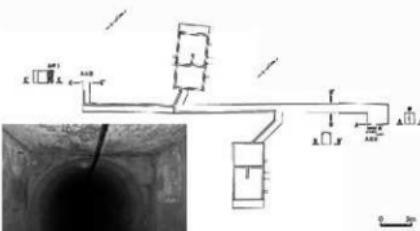


図16 鏡水海軍司令部壕跡（那覇市自衛隊基地内）

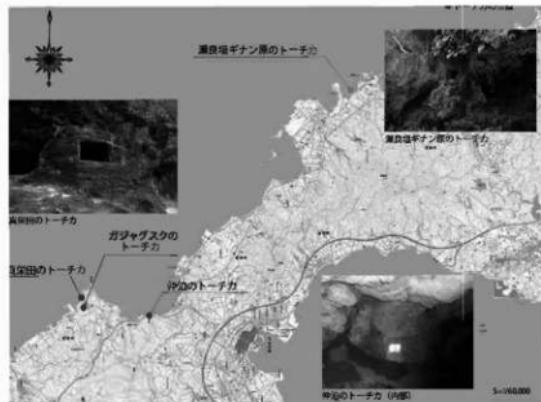


図 17 恩納村のトーチカ分布図（恩納村教育委員会作成）



図 18 川田・塩屋の銃座跡（うるま市）

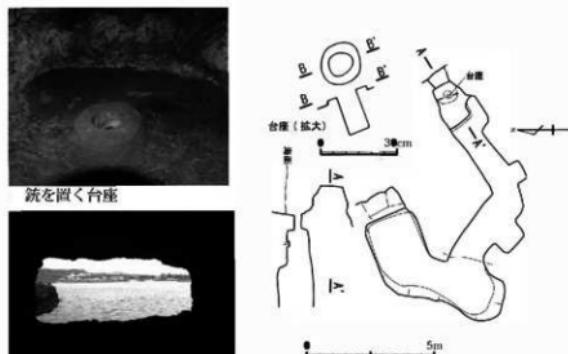


図 19 タカシカバーの銃眼跡（宮古島市）



南地 20 号陣地射界界島範囲

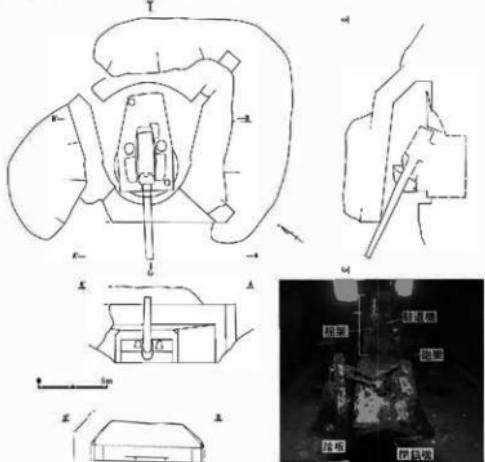


図 21 当間海軍砲台跡（那覇市自衛隊基地内）

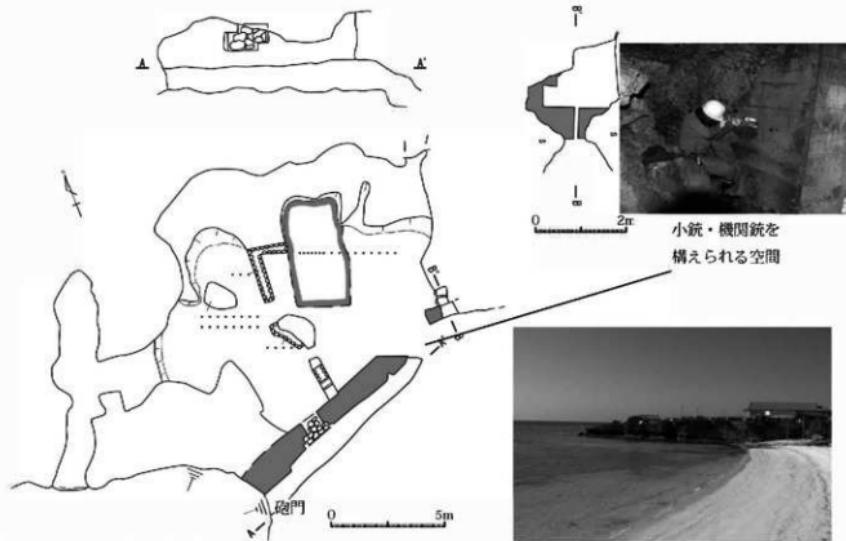


図 22 楚辺海岸の砲台跡（読谷村）



楚辺海岸の砲台跡（遠景）

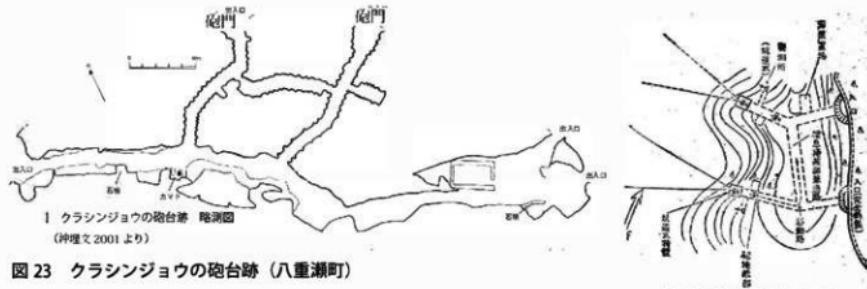


図 23 クラシンジョウの砲台跡（八重瀬町）

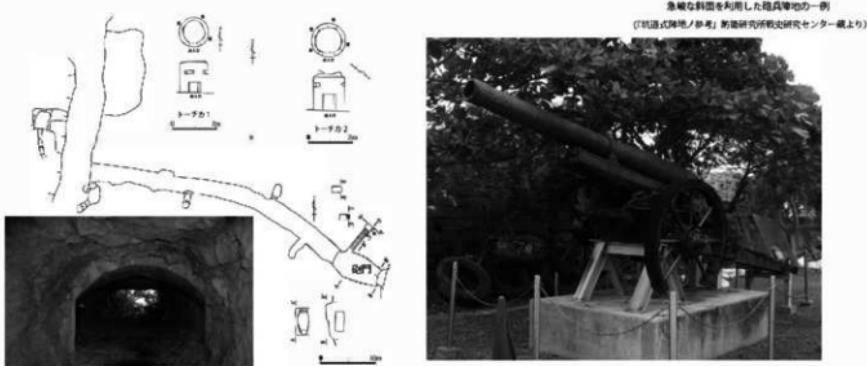


図 24 ピンフ嶺の砲台跡（宮古島市）

図 25 現存する 96 式 15cm 榴弾砲

（西原町）

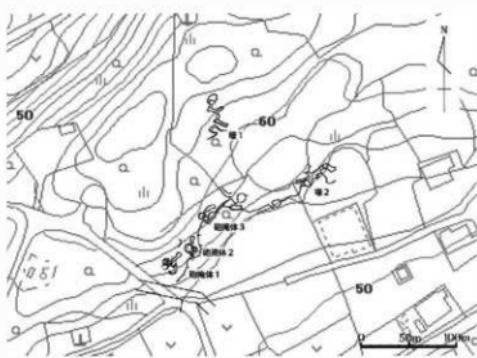
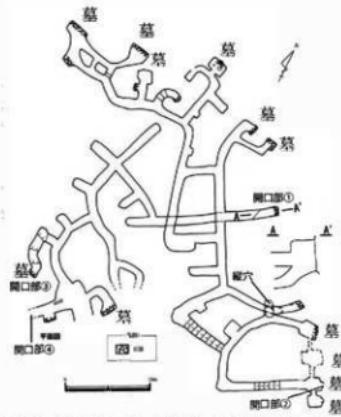


図 26 楚辺 1 丁目（城岳）の陣地壕跡（那覇市）

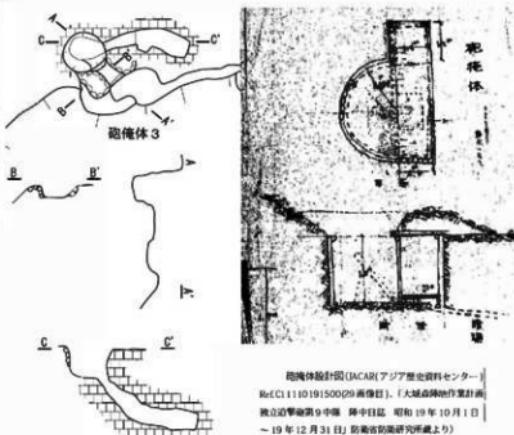


図 27 座波迫撃砲陣地跡（糸満市）

砲体設計図 (JACAR (アジア歴史資料センター)  
ReCC1110191500 (29画像組)、「大城森陣地作業計画  
独立沿勢第9中隊 陣中日記 昭和 19 年 10 月 1 日  
～19 年 12 月 31 日」防衛省防衛研究所蔵より)

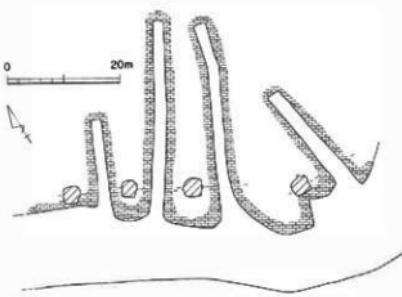


図 28 比謝川沿いの特攻艇密匿壕跡群（読谷村）

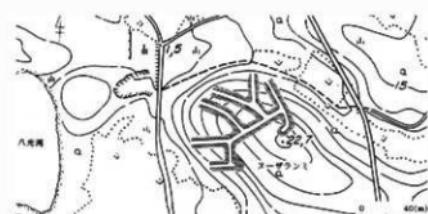


図 29 狩俣ヌーザランミの特攻艇密匿壕跡群（宮古島市）

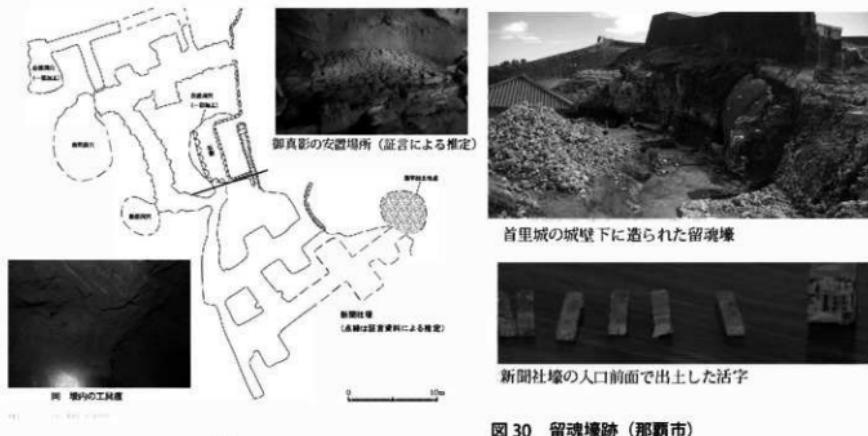


図 30 留魂塹跡（那覇市）

## ②米軍上陸に備えた戦争遺跡－2

- 1944年10月10日 10・10空襲 那覇も含めた南西諸島全域に米軍による大規模な空襲 防空壕等の構築、対馬丸の沈没などにより積極的でなかった県民の疎開も急速化（図31・32）
- 御真影奉護塹（各学校の御真影を1945年1月には本島北部などに奉遷）（図33・34）
- 防空塹（住民が個人や、親族・集落単位などの共同で人工的に構築、専門業者もいた）（図35～37）
- 官公庁塹（書類保管や職員避難のために県庁以下各役場等で人工壕の構築が行われた）（図38・39）

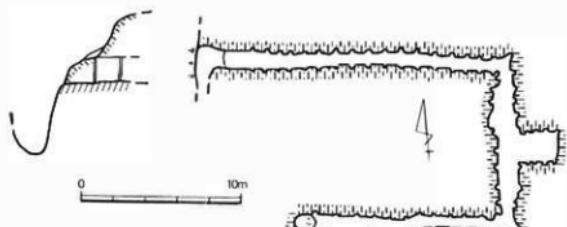


図 33 大温帯の御真影奉護塹跡（名護市）



図 32 10・10空襲・那覇港  
(大田昌秀『総史沖縄戦』より)

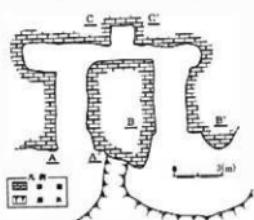
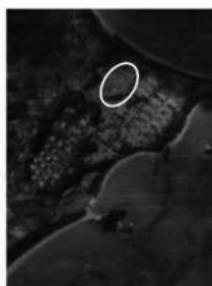


図 34 野原の御真影奉護塹跡  
(宮古島市)



図 31 学童疎開船・対馬丸  
(大田昌秀『決定版写真記録沖縄戦』より)



米軍 1944年9月  
25日撮影写真  
(国土地理院 HP)

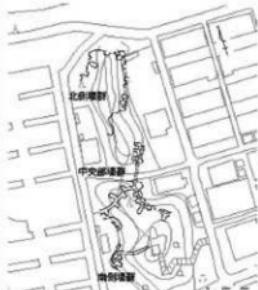


図35 愛楽園の防空壕跡群（早田塙）（名護市）

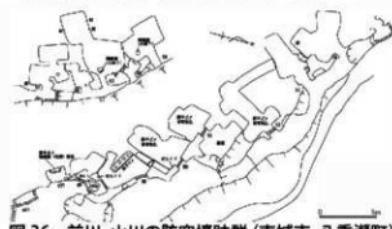
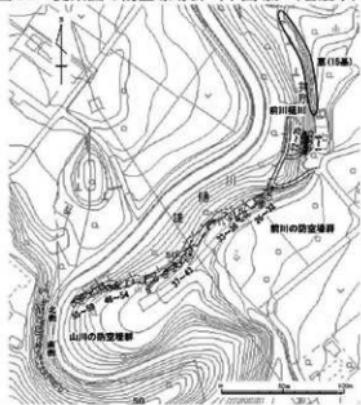


図36 前川・山川の防空壕跡群（南城市・八重瀬町）

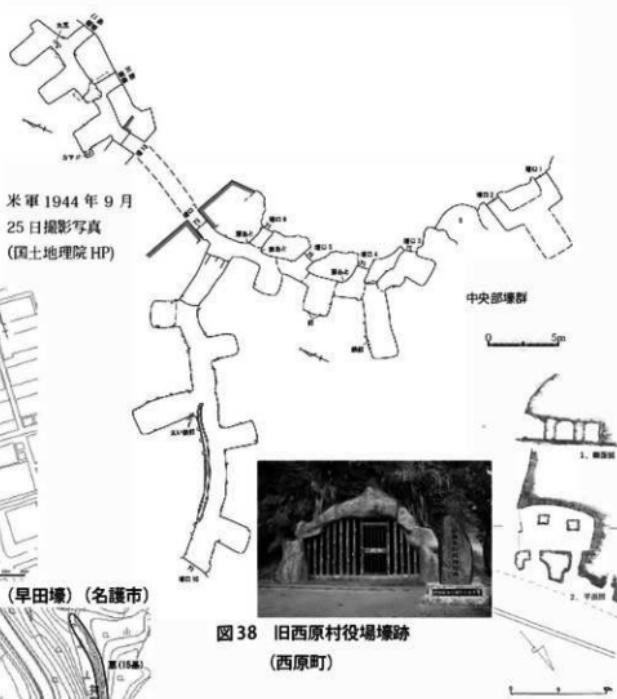


図38 旧西原村役場壕跡  
(西原町)



図37 掛保久の防空壕跡（西原町）  
(西原町教委・県埋文 2004「掛保久防空壕」  
『紀要沖縄埋文研究5』より)

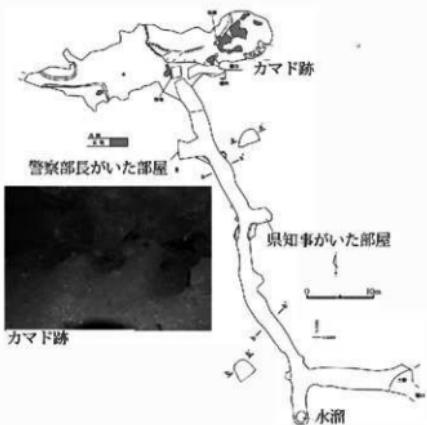


図 41 米軍艦隊上陸（大田昌秀『総史沖縄戦』より）

図 39 シッポウジヌガマ  
(県庁・警察部壕) 跡  
(那覇市)

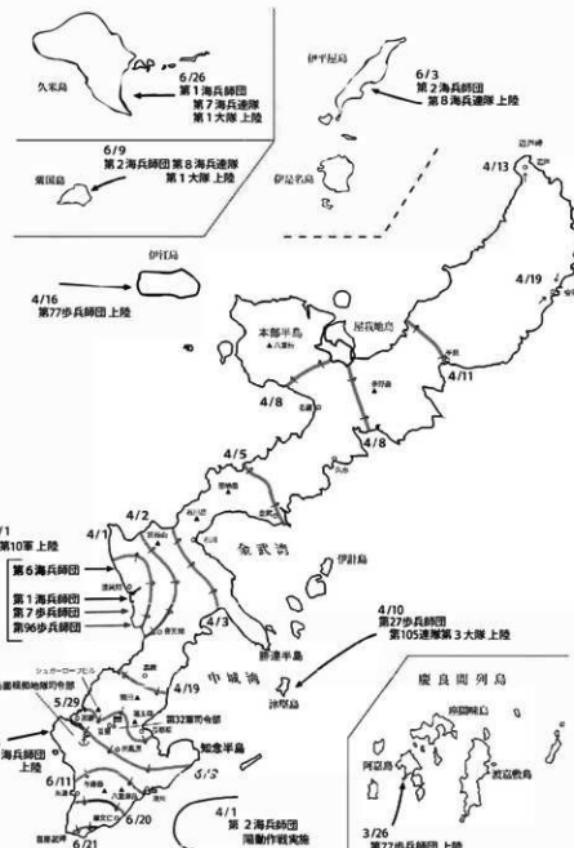


図 40 米軍進攻図

### ③上陸戦のありさまが窺える戦争遺跡（図40）

- ・1945年3月23日以降、米軍による空襲、艦砲射撃が激しくなる（図42）
- ・3月26日 慶良間諸島へ米軍上陸後、順次慶良間諸島占領（図43）
- ・4月1日 米軍、沖縄本島中部西海岸へ上陸、南北に進攻（図41）  
4月後半まで、宜野湾・浦添・西原一帯で日米軍の攻防が続く
- ・4月10日 米軍、津堅島上陸
- ・4月16日 米軍本部半島制圧
- ・4月21日 伊江島の日本軍壊滅（図44）
- ・5月3～5日 前田高地（浦添市）一帯に、日本軍総攻撃を行い失敗  
その後、第32軍司令部壕がある首里（那覇市）一帯で日米軍攻防
- ・5月27～29日 第32軍司令部は本島南部の摩文仁（糸満市）に撤退  
住民の多くも南部に避難しており、軍民混在の状況が生じた（図45～48）
- ・6月13日 海軍沖縄方面根拠地隊が小禄（那覇市）一帯で壊滅  
米軍は掃討戦を続け、日本軍は最終的に喜屋武半島南部（糸満市）まで撤退
- ・6月23日 第32軍牛島司令官・長参謀長が自決し、組織的戦闘終了  
日本軍の局部的な抵抗に米軍が掃討戦を続け、住民避難はその後も続く



図42 愛楽園給水タンクの弾痕（名護市）

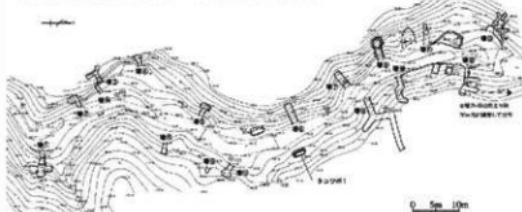


図43 北山（にしやま）の陣地跡群（渡嘉敷村）



図44 公益質屋跡の弾痕（伊江村）

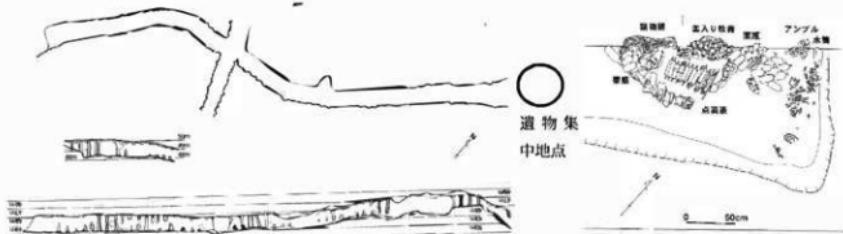


図45 沖縄陸軍病院南風原壕跡群 20号壕（南風原町）

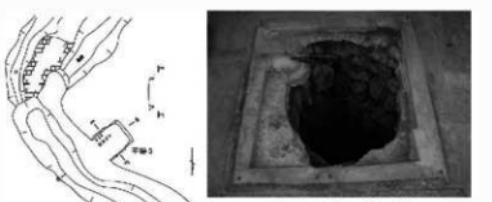


図46 チンガーガマへの  
入口の井戸（宜野湾市）



図47 石川岳の住民避難地跡（恩納村）

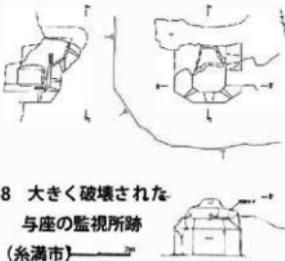


図48 大きく破壊された

与座の監視所跡

（糸満市）



大浦崎収容所の様子（『今泊誌』より）

#### ④収容所そして戦後

- ・米軍は、慶良間諸島上陸を果たした3月26日には、南西諸島における日本政府の行政権を停止し米軍政府の管理下に置くことを宣言した（ニミッツ布告）。
- ・米軍は、4月初旬以降、沖縄本島中北部を中心に収容所を造り、保護した住民や投降した日本兵を収容した。（図49）
- ・同時に、日本軍の飛行場の改修もしくは新たに飛行場などの基地を造成し、本土への攻撃に備えようとした。
- ・戦後70年現在、沖縄には米軍施設が県土面積全体の1割、日本における米軍が當時使用可能な施設の7割が集中している。



図49 大浦崎収容所跡（名護市）

## 沖縄県立埋蔵文化財センター

### 行事予定のご案内

#### 関連文化講座

##### 第 63 回文化講座

###### ■発掘調査速報 2015 その 2

日時：平成 27 年 8 月 8 日（土） 13：30 開始（13：00 開場）

会場：当センター研修室 講師：当センター職員

①東村跡発掘調査【那覇市】

②首里高校内中城御殿跡発掘調査【那覇市】

③首里城公園内中城御殿跡発掘調査【那覇市】

④首里城跡発掘調査【那覇市】

\*先着 140 名 予約等不要・参加無料

#### 今後の催しのご案内

##### パネル展

###### ■東日本大震災の復興支援『埋蔵文化財の発掘調査と文化財レスキュー』

①開催期間：平成 27 年 8 月 31 日（月）～9 月 4 日（金）

会 場：沖縄県県庁県民ホール A

②開催期間：平成 27 年 9 月 8 日（火）～10 月 4 日（日）

会 場：沖縄県立埋蔵文化財センター エントランスホール

##### 企画展

###### ■中城御殿跡出土品展

開催期間：平成 27 年 10 月 16 日（金）～12 月 13 日（日）

会 場：沖縄県立埋蔵文化財センター 企画展示室

\* 関連イベントを企画中です。詳細が決まり次第、当センターの

ホームページや、マスコミ等を通じて広報致します。

###### ■重要文化財公開「首里城京の内跡出土品展」

開催期間：平成 28 年 2 月 23 日（火）～5 月 15 日（日）

会 場：沖縄県立埋蔵文化財センター 企画展示室

## 沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7 (琉球大学附属病院横)

TEL 098-835-8752

FAX 098-835-8754

●開所時間 午前 9 時～午後 5 時まで（入所は午後 4 時 30 分まで）

●休 所 日 毎週月曜日、年末年始

国民の祝日（子どもの日、文化の日を除く）、慰霊の日（6 月 23 日）

\* 月曜日が祝日となった時は、翌日の火曜日も休所

その他、臨時休所あり